

能とクラシック音楽が紡ぐ鬼女伝説「安達原」
進化する舞台・・・

安達原

銀座の闇に鬼が舞う



里女/鬼女
武田宗典



ヴァイオリン
篠崎“まろ”史紀



ソプラノ
森谷真理



クラリネット
金子平

2022年10月11日(火)19:00開演 (18:15開場) *出演者によるアフタートークあり
王子ホール(中央区銀座4-7-5) 全席指定 6,000円(税込) 2022年8月22日(月)チケット発売

王子ホールチケットセンター 03-3567-9990(平日10:00~18:00) <https://www.ojihall.jp>

観世能楽堂 03-6274-6579(9:30~17:30)

Confetti(カンフェティ) 0120-240-540(平日10:00-18:00)
<https://www.confetti-web.com/adachigahara>

チケットぴあ <https://t.pia.jp>

e+ (イープラス) <https://eplus.jp>

新型コロナウイルス感染防止のため、ご来場時にはマスクの着用をお願いいたします。また会場では手指の消毒液を設置し、検温を実施しております。当日は、時間に余裕を見てご来場ください。皆さまのご協力をお願いいたします。

儂き世で今日も独り糸を繰る、私は鬼か人間か…。

歌舞伎、漫画、オペラ等、あらゆる作品に姿を変えて人々を魅了してきた安達原の鬼女伝説。

そこに棲むのは鬼女か、はたまた…。

「はごろも」に続く東京アート&ライブシティ・王子ホール×観世能楽堂の挑戦がつづく。

シテ: 武田宗典 / ワキ: 森常好 / ワキツレ: 舘田善博 / アイ: 野村太一郎

地謡: 岡久広・関根知孝・藤波重孝・角幸二郎・坂井音雅・清水義也・木月宣行・武田祥照

後見: 武田宗和・山階彌右衛門

笛: 杉信太郎 / 小鼓: 田邊恭資 / 大鼓: 亀井広忠 / 太鼓: 小寺真佐人

ヴァイオリン: 篠崎“まる”史紀 / ソプラノ: 森谷真理 / クラリネット: 金子平

作曲: 加藤昌則 / 演出: 家田淳 / 照明: 芥川久美子 / 舞台監督: 堀井基宏



武田宗典 Munenori Takeda (能楽師シテ方観世流)

(公社)能楽協会会員。重要無形文化財総合指定保持者。(一社)観世会理事。早稲田大学第一文学部演劇専修卒。父・武田宗和及び二十六世観世宗家・観世清和に師事。2歳11か月で初舞台、10歳で初シテ(主役)、以後、「石橋」「乱」「道成寺」「望月」「翁」等を抜く。海外公演多数。2014年アメリカにて、能と現代オペラの二部作競演『Tomoe&Yoshinaka』を企画し、両作品で主演を果たす。2021年(一社)EXTRAD主催公演において、試作能「桃太郎」を製作・主演。『武田宗典之会』主宰。舞台公演の他、「謡サロン」等の能楽講座・ワークショップを国内外で多数開催している。



篠崎“まる”史紀 Fuminori Maro Shinozaki (ヴァイオリン)

愛称“まる”。NHK交響楽団第1コンサートマスター。3歳より父にヴァイオリンの手ほどきを受ける。15歳の時に毎日学生音楽コンクール全国第1位。高校卒業後ウィーン市立音楽院に入学。翌年コンツェルト・ハウスでコンサート・デビューを飾り、その後ヨーロッパの主要コンクールで数々の受賞を果たす。1988年帰国後、群馬交響楽団、読売日本交響楽団のコンサートマスターを経て、97年に34歳でNHK交響楽団コンサートマスターに就任。以来“N響の顔”として国内外で活躍中。96年より東京ジュニアオーケストラソサエティの音楽監督、WHO評議会委員を務め、そのコンサートにも熱心に取り組んでいる。2020年度 第33回 ミュージック・ベンクラブ音楽賞受賞。



©タクミジユン

森谷真理 Mari Moriya (ソプラノ)

ニューヨークのマネス音楽院修了。メトロポリタン歌劇場にて2006年に《魔笛》夜の女王で大成功を収めたのをはじめ、リンツ州立劇場の専属歌手を務め、近年ではドイツのザクセン州立歌劇場で《蝶々夫人》に主演。国内外の著名指揮者および主要オーケストラとの共演も多い。2019年には「天皇陛下御即位を祝う国民祭典」にて国歌独唱を務めた。名古屋音楽大学准教授、東京藝術大学講師、洗足学園音楽大学講師。

<https://marimoriya.com/>



©KCO

金子平 Taira Kaneko (クラリネット)

1984年、埼玉県所沢市生まれ。東京藝術大学、2005年から独リューベック国立音楽大学で学び、12年同大学院卒業。01年ヤング・クラリネティストコンクール・ヤングアーティスト部門第1位。06年日本音楽コンクール第1位、併せてE.ナカミチ賞、岩谷賞(聴衆賞)。08年ヴィースバーデン・モーツァルト・コンクール第1位、同年ARDミュンヘン国際音楽コンクールで日本人初の第3位入賞、09年ルイ・シュポア・メダルなど受賞多数。09年から12年までリューベック歌劇場管弦楽団(リューベック・フィル)でクラリネット奏者を務めた。NHK-FM番組、木曾音楽祭、東京・春・音楽祭などに出演。現在、読売日本交響楽団首席クラリネット奏者、紀尾井ホール室内管弦楽団メンバー。

加藤昌則 Masanori Kato (作曲家)

東京藝術大学作曲科首席卒業、同大学大学院修了。作品はオペラ、管弦楽、合唱曲など幅広く、創意あふれる編曲にも定評がある。多くのソリストに楽曲を提供、共演ピアニストとしても評価が高い。独自の視点、切り口で企画する公演やクラシック講座などのプロデュース力にも注目を集めている。NHK-FM「鍵盤のつばさ」番組パーソナリティー。長野市芸術館レジデント・プロデューサー。ひらしん平塚文化芸術ホール 音楽アンバサダー。

家田淳 June Iyeda (演出)

10代をアメリカで過ごす。国際基督教大学卒業。エディンバラ大学留学。英ロイヤルオペラハウスにて研修。東京二期会、新国立劇場他で世界的な演出家の演出助手を多数務めたのち、オペラ、コンサート、ミュージカルを中心に構成・翻訳・台本・演出を手掛ける。近年はオペラの日本語と英語の字幕製作も数多く担当。洗足学園音楽大学准教授。

